

学 位 論 文 要 旨

博士課程 甲・乙	第 号	氏 名	遠藤 公彦
<p>[論文題名]</p> <p>Risk Factors for Atrophic Gastritis in the Japanese Young and Middle-Aged: A Study Using Double-contrast Upper Gastrointestinal Barium X-Ray Radiography</p> <p>本邦の若年齢者の萎縮性胃炎に対する危険因子:二重造影法を用いた上部消化管バリウムX線検査による検討</p> <p>JJR(Japanese Journal of Radiology), accepted, 2018 Dec;36(12):706-711</p> <p>DOI:10.1007/s11604-018-0782-8.</p> <p>[要 旨]</p> <p>背景;</p> <p>癌罹患患者数の増加を続ける近年において、胃癌に限れば罹患率・死亡率ともに年次減少傾向である。ただし胃癌は依然として我が国の癌罹患数、癌死亡数ともに上位を占めている。ピロリ菌は胃癌と関連しているが、感染すると胃粘膜萎縮を引き起こし萎縮性胃炎を生じさせる。ピロリ菌感染による萎縮性胃炎を放置すると胃粘膜に腸上皮化生を生じ、胃癌の発生率を上昇させることも知られている。最近、胃癌患者が減少してきた要因としてはピロリ菌除菌療法の存在が大きく関与している。胃癌を発症した人はほぼ全例にピロリ菌に感染していることが報告されており、ピロリ菌除菌が胃癌のリスクを減少させることも知られている。胃癌と萎縮性胃炎は関連しているが、萎縮性胃炎の原因としてはピロリ菌以外にも様々な因子があり、加齢性変化や喫煙、性差、ストレス等挙げられている。</p> <p>胃X線検査は内視鏡検査と比較して胃の萎縮を比較的鋭敏に描出することがわかっている。胃の萎縮程度の評価は内視鏡検査がゴールドスタンダードであるが、最近の研究で胃X線検査の診断能が高いことが明らかになっている。</p> <p>若年齢層(50歳未満)においても胃の萎縮性変化はしばしば認められるが、ピロリ菌感染がどの程度影響しているかはわかっていない。また、萎縮性胃炎の原因となる危険因子を若年齢層において評価しているまとまった報告もみられない。本研究の目的は、加齢性変化による胃萎縮を除外した若年齢層において、X線検査を用いた萎縮性胃炎と様々な要因(ピロリ菌感染、喫煙、飲酒歴、肥満度、性差等)がどの程度関連しているかを明らかにすることである。</p>			

方法；

2015年4月1日から2016年3月31日において宮崎市郡医師会成人病検診センターで、ABC検診(胃がん検診)と胃X線検査か内視鏡検査を受けた1907例のうち、ABC検診と胃X線検査を受けた50歳未満の受診者351例を対象とした(男性158例、女性193例、年齢25-49歳、平均年齢43.8歳)。

胃X線検査は二重造影法を用いた標準検査法で行った。また、胃X線検査による胃の萎縮程度を4段階(Grade0: 胃体部や前庭部において全体に萎縮が認められない状態、Grade1: 胃前庭部のみに萎縮が認められる状態、Grade2: 萎縮が前庭部を越え胃角部より体部側へ進行している状態、Grade3: 萎縮が胃体部全体にわたり認められる状態)に分類し、検診読影経験歴の長い2名の放射線科診断専門医が行った。X線検査での萎縮性胃炎の読影者間での診断一致率がどの程度かについてカッパ検定で評価した。胃X線画像における萎縮の程度がGrade1-3の場合に萎縮性胃炎が有りと定義した。萎縮性胃炎の有無と喫煙状況、性差、肥満度、血液抗体でのピロリ菌感染の有無の関係を単変量解析、多変量解析で評価した。

結果；

351例中85例(24%)で胃X線検査にて萎縮性胃炎が認められた。胃の萎縮程度の評価において読影者間のカッパ係数値は0.745であった。

胃X線検査での萎縮に与える因子を単変量解析すると、ピロリ抗体値(IgG \geq 10 U/ml)と性差が有意な因子であった。多変量解析では、ピロリ抗体陽性のみが独立した有意な因子であった。また、ピロリ抗体陽性群は陰性群と比べて127.9倍萎縮性胃炎を生じやすかった。

考察；

本研究の結果、若年齢者において胃X線検査で萎縮性胃炎を認めた場合にピロリ菌感染のみが独立した有意な因子であった。胃X線検査は胃内視鏡検査に比べ低侵襲で安価、簡便な検査であり胃癌検診のスクリーニングに使用できればその効果は高いと考えられる。この研究は、後方視的研究で、単一施設の症例であり、症例数が少ない点が限界点である。今後は多施設での大規模な症例数での検討が必要と思われる。また、逆流性食道炎に対するPPI内服歴による胃粘膜障害での萎縮を除外する必要があると考える。

結語；

本邦の50歳未満の若年齢層において、胃X線検査で認められる萎縮性胃炎とピロリ菌感染には有意な関連性がみられた。また、胃X線検査は若年齢層におけるピロリ菌感染胃炎の有無を調べる検査として有用である。

備考 論文要旨は、和文にあつては2,000字程度、英文にあつては1,200語程度